

[印象記]

## シンポジウム・世界で活躍する専門職からのメッセージ

新潟医療福祉大学 健康科学部 看護学科  
教授 松井由美子



本学術集会のシンポジウムのテーマは「世界に輝く国際活動」でした。座長の依頼をいただいた時、そのテーマを伺っただけでワクワクしたのを今でも覚えています。いただいた学術集会特集号の表紙を拝見した時が2度目の感動の瞬間でした。それは新潟医療福祉大学が新潟の地から世界に発信する地球の絵でした。

同時にそれは、改めて、このシンポジウムのもつ深い意味と座長としての責任の重さを感じた瞬間でもありました。

今回お迎えしたシンポジストの方々は3名ともお若くて学生さんたちにとって身近に感じられる存在であり、活動内容とそれにかかる思いもストレートに伝わったのではないかと感じました。

本学義肢装具自立支援学科講師の前田雄先生は所属学科の学生さんが2009年から続けていらっしゃる「空飛ぶ車椅子サークル」の活動を支えてこられました。シンポジウムでは「空飛ぶ車椅子プロジェクト」と呼ばれる日本で使われなくなった車椅子を回収・修理・整備してアジア諸国に送る国際ボランティア活動をご紹介いただきました。学生主体のこの活動には綿密な計画と学生への技術指導など目に見えない縁の下で支え続ける忍耐と情熱が必要です。前田先生の淡々と語られる活動報告に秘められた熱い思いを感じました。

お二人目のシンポジストは社会医療法人三栄会ツカザキ病院で視能訓練士として活躍されている石飛直史さんです。「アフリカ眼科医療を支援する会（Association for Ophthalmic Support in Africa: AOSA）」をモザンビーク共和国で2013年から6年続けてこられました。写真で見るとそのNGO活動は医師、看護師、視能訓練士などからなる専門職連携による活動で、海外での視能訓練

士の活躍を拝見する機会にもなりました。スライドの中でアフリカの患者さんが視力を回復し喜んでおられる笑顔のお姿は本当に感動的でした。

三人目のご発表は第9管区海上保安部新潟航空基地に勤務されている機動救難士で救急救命士の渡邊翼さんです。救急救命士でもある渡邊さんは、国内の災害救助はもちろん、海上保安庁の行う海保救命士として国際緊急援助への派遣経験も豊富です。その中でメキシコ地震の際に派遣された経験について写真を使ってご説明くださいました。気候や地形、文化の異なる海外での災害救助は想像以上に過酷で困難を極めます。鍛えられた体と屈しない精神力が人々の命を支えていることを実感した内容でした。

今回のシンポジウムが、田淵仁志先生の素晴らしい特別講演と共に、国際活動を世界に発信する新潟医療福祉大学を強く印象付けました。今回ご発表いただいた義肢装具士、視能訓練士、救急救命士の3つの専門職を輩出する学科の学生さんのみならず、本学の保健医療福祉の専門職を育成するすべての学科の学生さんが世界を舞台に活躍されることを期待したいと思います。

この企画をしていただいた視機能科学科の皆様へ感謝申し上げますとともに、座長として共に進行役を果たしていただいた視機能科学科の村田先生にも心から感謝申し上げます。



3名のシンポジスト(左から、前田雄氏、石飛直史氏、渡邊翼氏)